

ジャイアントパンダの偽妊娠期における育児様行動と妊娠期・偽妊娠期の尿中オキシトシン濃度の変化

○谷口祥介¹, 堀田紗代², 吉田憲一¹, 梅元良次¹, 木下こづえ³ (¹神戸市立王子動物園, ²地方独立行政法人天王寺動物園, ³京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

ジャイアントパンダ (*Ailuropoda melanoleuca*) の偽妊娠期にみられる特徴的な行動のひとつとして、物や食べ物を抱える行動 (cradling behaviour : 本研究では「育児様行動」と呼ぶ) が知られている。行動の発現の有無には個体差があるが、当園で飼育していたジャイアントパンダ (メス, 1995年9月16日出生) は偽妊娠の後に明確な育児様行動を示していた。本研究では、偽妊娠時の育児様行動について記録するとともに、母性行動の発現に関与するホルモン「オキシトシン」の尿中濃度を測定し、関連を調査した。また、オキシトシンは分娩に関与することから、妊娠期と偽妊娠期における動態を調査した。

2020年の偽妊娠期から育児様行動の見られた期間を調査期間とし、1日あたりの育児様行動 (物や給餌物を抱える, 舐める) が見られた時間を分単位で記録した。さらに、この期間に加え、2008年の妊娠から出産、子の死亡後までの期間を調査期間とし、尿検体から測定キットを用いてオキシトシン濃度を測定した。

育児様行動時間は、偽妊娠の終期から出現し、偽妊娠が終わると急激に増加した。尿中オキシトシン濃度は、偽妊娠後の育児様行動を示した期間では高値を示した一方、2008年に出産した子の死亡後は、低値を示した。以上より、オキシトシンと育児様行動の間に何らかの関連があると考えられた。また、尿中オキシトシン濃度は、偽妊娠時には低値で維持したが、妊娠時では出産前に顕著な上昇が見られた。妊娠時と偽妊娠時でオキシトシン動態が異なること、またオキシトシンが分娩に関与している可能性が示唆された。